

## 「平成24年度グローバルCOEプログラム委員会（第1回）」議事概要

1. 日 時：平成24年4月13日（金）16：00～18：00
2. 場 所：独立行政法人日本学術振興会麹町事務室 3階 会議室
3. 出席者：（委 員）安西委員、河田委員、白井委員、鈴木（厚）委員、鈴木委員、立本委員、田中（隆）委員、田中（英）委員、玉尾委員、知野委員、戸張委員、中島委員、納谷委員、野上委員、野依委員、福山委員  
（文部科学省）板東高等教育局長、樋口大学改革推進室長  
（事 務 局）戸渡理事、浅島理事、會田監事、京藤監事、小山内研究事業部長、奥田専門調査役、有菌研究事業課長代理

### 4. 議事概要

- ・議事に先立ち、審査・評価の実施主体である独立行政法人日本学術振興会の安西理事長より挨拶があった。
- ・続いて、事業の実施主体である文部科学省の板東高等教育局長より挨拶があった。
- ・平成24年度グローバルCOEプログラム委員会委員名簿[資料1]により委員が紹介された。

#### (1) 委員長の選出等について

- ・互選により、野依委員が委員長に選出された。
- ・野依委員長より、副委員長には、安西委員が指名された。

#### (2) 委員会の運営等について

- ・グローバルCOEプログラム委員会の審議内容等の取扱いについて[資料2]、グローバルCOEプログラム委員会規程 [資料3]、グローバルCOEプログラム委員会組織図 [資料4]、自己の関係する大学の事案に関する取扱いについて [資料5] について、事務局より説明があった。

#### (3) 平成19年度採択拠点事後評価について

- ・グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点事後評価日程（案）[資料6]、グローバルCOEプログラム 平成19年度採択拠点事後評価実施拠点一覧[資料7]、グローバルCOEプログラム評価要項（案）[資料8]、グローバルCOEプログラム事後評価用調書（平成19年度採択拠点）様式（案）[資料9]、グローバルCOEプログラム事後評価用調書作成・記入要領（平成19年度採択拠点）（案）[資料10]、グローバルCOEプログラム事後評価書面評価書（案）[資料11]、グローバルCOEプログラム事後評価結果（様式）（案）[資料12]、グローバルCOEプログラム事後評価ヒアリング実施要領・評価書（案）[資料13]、グローバルCOEプログラム事後評価現地調査実施要領・報告書（案）[資料14]、グローバルCOEプログラム平成19年度採択拠点事後評価結果に対する意見申立てについて（案）[資料15]、について、事務局からの説明の後、質疑応答が行われた。審議の結果、委員からの意見を踏まえ資料の一部について修正することとなった。主な意見は以下のとおり。

#### (主な意見)

- 対象拠点及び評価者は大変な労力を要するが、本当に当初の目的が達成されたのか、今後につながるよう有為な評価を実施しなければならない。
- 人文科学の系統で言えば、海外機関等の参画によりプログラムが活発になるなど、一定の成果があがっている拠点が散見される。
- 21世紀COEプログラムから続いているプログラムもあり、かなりの拠点に育ってきたものもあると思う。個々の拠点の評価の方法は説明のあったとおりでよいと思う。

- 分野により基準は異なるが、グローバルな標準を意識した形で自己評価し、その水準の適切さを委員会で判断することが重要である。
- 国際的に卓越した教育研究拠点の形成を評価する上で、国際的に何が不足しているかを明確にする必要がある。
- グローバルな評価という場合、本プログラムを修了した学生に対しどれだけ海外からのニーズがあったかという指標があってもよい。
- 「拠点」とは、今後も一定レベルの教育研究が維持されていくものであるが、大学全体のバックアップが必要。
- 評価の上で、教育研究の質の向上が重視されるが、長期的には現時点で継続性が明確に計画されているか確認することが重要である。
- 教育研究の国際的拠点を学内に、持続的に設置する努力はポジティブに評価すべき。
- 評価の際、当初の目的以上に成果をあげた拠点は十分評価されるべき。

(4) その他

- ・分野別審査・評価部会への分属委員等の指名が委員長より行われた。また、事業の実施主体である文部科学省より平成24年度予算の状況などについて説明があった。